

戦争止めよう！ 沖縄・西日本ネットワーク

結成集会

13:30 開会

第一部：各地の報告（13:30～15:15）

13:35 沖縄・西日本で進む軍事強化の報告
池田年宏さん（30分）

14:05 地元から報告

- ①馬毛島の巨大基地建設（20分）
長野広美さん（馬毛島への米軍施設に反対する市民団体連絡会）
- ②奄美の自衛隊基地と米軍（20分）
城村典文さん（戦争のための自衛隊配備に反対する奄美ネット）
- ③さつま町の弾薬庫（20分）
武さとみさん（さつま町の弾薬庫問題を考える会）

15:05 連帯アピール（10分）

高田 健さん（戦争させない・九条壊すな！総がかり行動 運営委員）

15:15 **休憩**（15分）木元さん映像（6分）

第二部：結成総会（15:30～16:30）

15:30 基調提案
「知り つながり 止める」
高井弘之さん（20分）

15:50 沖縄・西日本ネットワークの
結成提案：新田秀樹さん（20分）

16:10 フロアーから意見（15分）

16:25 結成宣言：海北由紀子さん（5分）



沖縄・西日本ネットワークの結成提案

【結成趣旨】

アメリカは、国際秩序を踏みにじる世界戦略を持ち、アジア・太平洋戦略において NATO 諸国など同盟国を巻き込み、対中国包囲網を形成しようとしています。

日本政府は、日米同盟のもと急速に自衛隊基地新設や拡張、敵基地攻撃兵器のための弾薬庫建設などの装備強化、有事を想定した一般港湾空港・民間施設利用などの戦争準備を進めています。一方、軍事費（防衛費）の大幅増が私たちの生活を脅かしています。このままでは、私たち自身が戦争の加害者にも被害者にもなっていきます。全国各地でこの動きに抗して地域運動が起こっています。

私たちは、情報を共有し、連携して運動を全国に広げようとしてつながり始めました。ネットワークの構築は急務です。まずは沖縄・西日本から、基地強化の現場で奮闘する人々の結集と同時に、主権者である一人ひとりが声を上げることが大切です。

ネットワーク発足前も、軍事強化などの現場で交流を重ねてきました。引き続き地域交流を行うとともに、政府に対しての要請、全国行動なども行っていきます。

「知り・つながり・止める」を合言葉に互いの状況を報告・共有し、知恵を出し合いながら、各地・各団体・各個人が連帯する共同の闘いを実現し、新たな戦争を止めていきましょう。



【活動の骨子】

— 知り、つながり、止める！ —

新たな戦争を止めるために、沖縄・西日本の各地・各団体・各個人がつながり合う「ネットワーク」を作り、軍事拠点化される各地の情報を共有し、連携・連帯して共同の闘いを行います。

【構成、及び運営】

☆ネットワークは、結成趣旨に賛同する沖縄・西日本の戦争反対、平和活動が主体の地域団体、個人で構成します。

☆結成趣旨に賛同するその他の全国の団体、個人は賛同団体、個人としネットワークの活動に協力をお願いします。

☆運営委員会（事務局）を設けます。

運営委員会は参加団体、個人から、地域ごとに10名程度選出します。
なお、各地での交流集会や要請行動等には随時、当該地域からの参加を求めます。

当面の運営委員は、新垣邦雄（沖縄）、藤井幸子（石垣）、野呂正和（鹿児島）、海北由希子（熊本）、豊島耕一（佐賀）、池田年宏（大分）、宗吉信一（福岡）、新田秀樹（広島）、高井弘之（愛媛）、八木建彦（奈良）今市和昭（大阪）

☆参加団体で随時、オンライン交流会議を行います。

☆共同代表は、具志堅隆松（ノーモア沖縄戦 命どう宝の会）、
海北由希子（平和を求め軍拡を許さない女たちの会・熊本）、
高井弘之（ノーモア沖縄戦・えひめの会）、
呉羽真弓（京都・祝園ミサイル弾薬庫問題を考える住民ネットワーク）とします。

☆事務局と会計は「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」が担当します。

各地域連絡先：新垣邦雄（沖縄）、池田年宏（九州）、

新田秀樹（中・四国）、八木建彦（関西）

☆会計は全国からのカンパ、寄付金で運営します。

諸行動については原則、参加団体、個人の負担とします。

☆WEB チームを発足し、メルマガ、ホームページ、SNSなどで発信していきます。WEB チームからも運営委員会に参加していただきます。

☆情報共有のツールとして、

メーリングリスト（「沖縄・西日本ネット」メール）を活用します。

結成宣言（案）

「戦争」も「武力による威嚇」も否定し、「陸海空軍その他の戦力を保持しない」と宣言した日本国憲法のもと、私たちの「戦後」は80年を迎えます。しかし、この国は、アジアの国々・人々への侵略・植民地支配の責任に向き合うことなく、また、自国の戦争被害者に対する責任も放棄したまま、新たな戦争体制づくりを急スピードで行っています。

沖縄・奄美の島々では、新たな自衛隊基地が造られ、攻撃用のミサイルと部隊が配備され、戦争態勢の構築が行われて来ました。その軍事拠点化は、いま、九州を中心に西日本から全国に拡大しています。

莫大な税金を使って、弾薬庫の建設や基地の大拡張が強行されています。全国各地で、自然破壊、住民の分断、人権侵害が行われています。国際法が求める「軍民分離の原則」に反し、住宅地のすぐそばへの軍事施設建設、民間の港湾・空港の軍事利用、公道を軍事車両が走行するまでになっています。そして、沖縄島の住民には「屋内退避」が、宮古・八重山・奄美などの住民には生活を捨てて、リュック一つで、攻撃対象にもなりうる九州や山口への「避難を名目にした疎開」が強要されています。これらは実効性のない計画です。

さらに政府は、自衛隊司令部の「地下化・強靱化」を全国で進めています。住民の命をないがしろにしたまま、戦争を遂行しようとしています。これは、住民に多大な犠牲を強いた80年前の沖縄戦をこえ、全国を破壊する戦争計画です。

また、米日・NATO諸国などによって、経済的に深い結びつきのある中国を「仮想敵」とする合同軍事演習が日本各地・周辺海空域や南シナ海などで繰り返され、「中国包囲網」の構築が行われています。そして、いよいよ中国に届く敵基地攻撃ミサイルの配備が、琉球弧—日本列島で始まろうとしています。「大軍拡」を超えた臨戦態勢の構築が目前で行われています。私たちは戦争の加害者にも被害者にもなりたくありません。

「知り、つながり、止める。」

平和を創り出すために、本日、私たちは新たな闘いに歩み出します。互いの情報を共有し、知恵を出し合い、つながり、連帯し、市民の共同の力で、「国家による戦争」を止めます。

ここに、「戦争止めよう! 沖縄・西日本ネットワーク」の結成を宣言します。

2025年2月22日

「戦争止めよう! 沖縄・西日本ネットワーク」結成 鹿児島集会 参加者一同